



緊急避妊薬



知っておきたい8つのこと

緊急避妊薬*は、性交後72時間以内に飲むことで高い確率で妊娠を避ける薬です。避妊具を使用しない性交や避妊の失敗、性暴力被害の際の重要な備え（バックアップ）になります。万が一のとき、女性が健康を守るために安心して安全に使用できるように、WHOファクトシート**に引用される医学論文をもとに「緊急避妊薬知っておきたい8つのこと」をまとめました。

緊急避妊薬*レボノルゲストレル単独の緊急避妊薬（商品名：ノルレボ錠、レボノルゲストレル「F」）

WHOファクトシート**Fact sheet on the safety of levonorgestrel-alone emergency contraceptive pills (LNG ECPs)References (右QRコード参照→)



1 緊急避妊薬は思春期を含むすべての女性に安全に使用できます

- ✓ 緊急避妊薬の成分 レボノルゲストレルは、30年以上前から広く様々な薬剤に使用され、広く研究されています。
- ✓ 成分は数日以内に体内から消失し、中毒性のリスクはありません。
- ✓ WHOは、**緊急時に1回服用することを推奨していますが、繰り返し使用しても健康上のリスクや副作用は報告されていません。**
- ✓ 1回の月経周期に複数回使用しても重篤な副作用は報告されていません。
- ✓ がんのリスクの増加との関連性は示されていません。 ✓ 脳卒中や静脈血栓塞栓症のリスクはありません。

2 緊急避妊薬に重い副作用や長く続く副作用はありません

- ✓ **重篤な副作用や持続的な副作用はありません。** ✓ 軽度で短期的な副作用が一部の女性に出ることがあります。
- ✓ 最も一般的な副作用は月経不順で、その他、疲労感、腹部不快感、吐き気などです。（月経不順は緊急避妊薬の作用で排卵が遅れた結果生じると考えられます。）

3 緊急避妊薬は子宮外妊娠のリスクを高めません

- ✓ 緊急避妊薬使用後に成立した妊娠における異所性妊娠（子宮外妊娠）は1%未満であり、**一般的な異所性妊娠の割合よりも低いと同程度です。**

4 緊急避妊薬は将来の妊娠しやすさに影響しません

- ✓ 成分は数日以内に体内から消失し、**将来の妊よう性（妊娠しやすさ）に影響を与えません。**

5 緊急避妊薬は胎児に害を与えません

- ✓ 妊娠初期に誤って使用しても、緊急避妊薬使用後に妊娠しても、**胎児に害を与えません。**

6 緊急避妊薬は流産させる薬ではありません

- ✓ 緊急避妊薬の主な作用は排卵を止めたり、遅らせることです。
- ✓ **流産させたり、中絶する薬ではありません。**

7 市販薬化された場合、女性は、緊急避妊薬の情報を理解し正しく使用できます

- ✓ 緊急避妊薬の使い方は簡便で、**医学的管理下におく必要はありません。**
- ✓ 多くの国で市販薬または処方箋なしで使用されています。
- ✓ **若い女性も成人女性も、ラベル表示と説明書を容易に理解出来ることが実証されています。**
- ✓ 10代の若者や若い女性が、一度に複数の緊急避妊薬を手に入れた場合でも、日常的な避妊法の代わりに緊急避妊薬を繰り返し使用するということはありません。

8 緊急避妊薬が手に入りやすくなっても、無防備なセックスは増えません

- ✓ 緊急避妊薬へのアクセスが簡単になっても、**性的もしくは妊娠のリスクのある行為は増えません。**
- ✓ 緊急避妊薬をあらかじめ手に入れた女性は、必要なときに使用し、最も効果的な性交後12時間以内に服用する可能性が高かったことが示されています。
- ✓ イギリスの研究で、若年層の緊急避妊薬に対する知識や手に入れやすさと、性的活動が活発になる可能性との間には相関関係はないことが示されています。
- ✓ 緊急避妊薬を使用したことがある10代の若者や若い女性は、緊急避妊を一度も使用したことの無い方と比較して、**性感染症のリスクは高くありません。**